



「校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」の改定 ②

教育管理職等に求められる役割

今回の改定では、教育管理職候補である主幹教諭の指標が、教育管理職等に位置付けられています。教育管理職等に求められる役割は、「**①学校経営方針の作成・具現化**」、「**②組織づくり**」、「**③学校内外とのコミュニケーション**」の3点に整理されました。

校長に求められる役割としては、学校の働き方改革の重要性を踏まえ、**教師の能力発揮と働きやすい職場環境の構築・推進**が新たに加えられました。

校長は、**職場における心理的安全性の確保と多様な教職員同士の関わり合いを軸に、学校が直面する教育課題を組織的に解決することができるようリーダーシップを発揮するとともに、研修環境を整えることが重要**です。



教育管理職候補 主幹教諭	教育管理職	
	副校長	校長
<p>① 学校経営方針を受けて、他の教員に対してリーダーシップを発揮することで副校長を支え、管理職として必要な学校経営ができる力を身に付ける。</p> <p>② 教職員とのコミュニケーションにより自校の課題を捉えて解決策を立案し、課題解決に向けて参画する。</p> <p>③ 学校内外との良好なコミュニケーションを実践し、学校の教育力を高める方策を提案する。</p>	<p>① 学校経営方針の具現化に向けた方策を作成・提示し、リーダーシップを発揮して教育活動の改善の中心となり、校長と共に学校を運営する。</p> <p>② 教職員の状況変化を敏感に捉え、組織的な課題解決に向けて、校長と共に働きやすい職場環境を推進する。</p> <p>③ 学校内外とのコミュニケーションの中心的役割を担い、学校の教育力を高める。</p>	<p>① 学校内外の実態把握に基づいた学校経営方針を作成・提示し、広い視野でリーダーシップを発揮して学校改革を推進する。</p> <p>② <u>教職員の状況等を的確に把握し、個々の能力が最大限に発揮できる人材配置と働きやすい職場環境を構築し、推進する。</u></p> <p>③ 学校内外との良好なコミュニケーションを推進して、学校をとりまく関係者の相互作用により、学校の教育力を最大化する。</p>